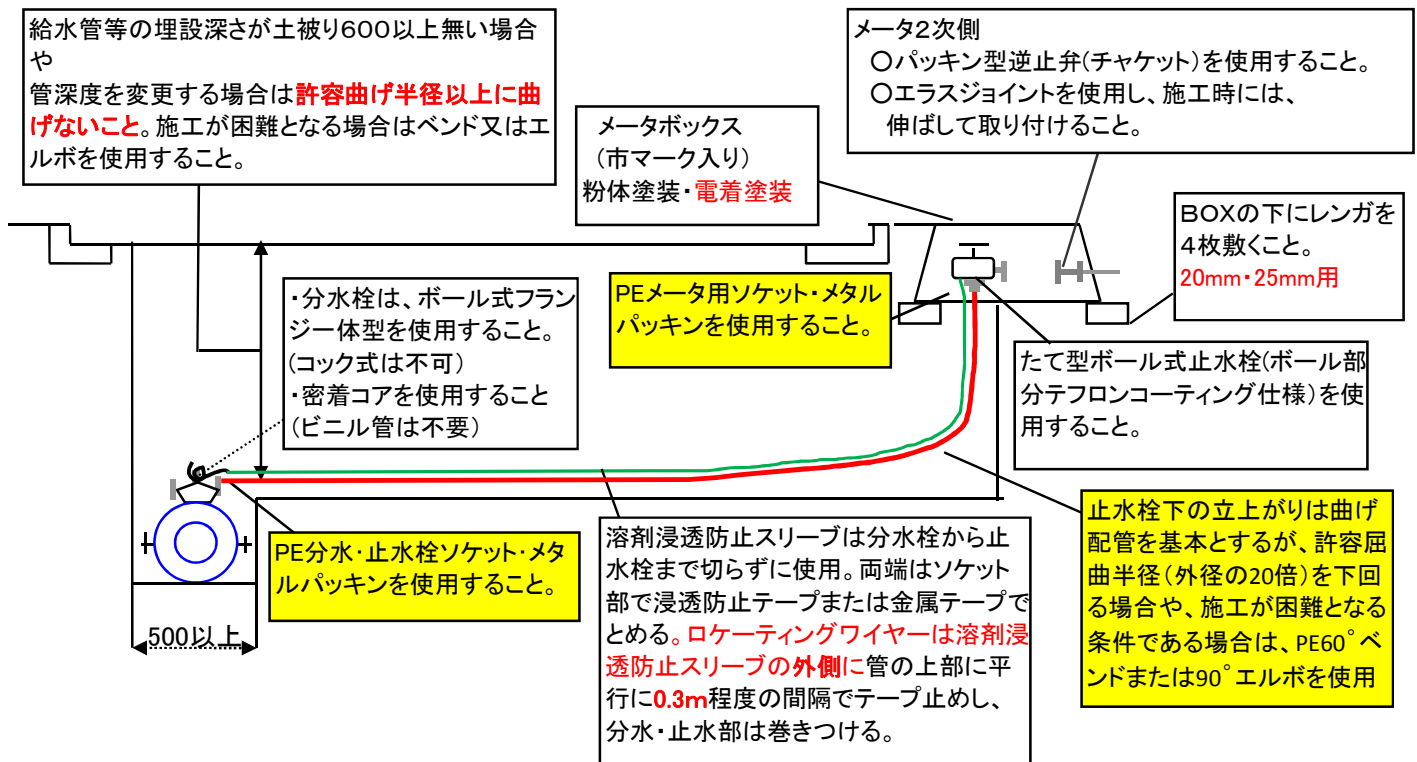


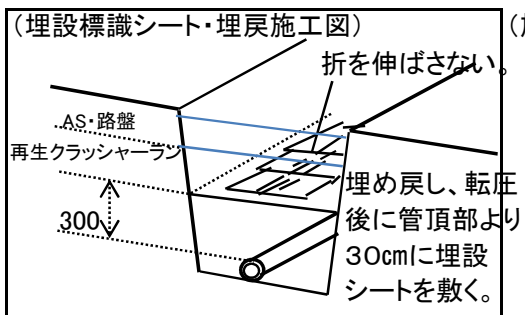
羽曳野市給水工事標準施工図(配水管: 鋳鉄管・ビニル管)

2019・6



各継手については、耐震性継手(ワンブッシュ式: インコア打ち込み型)を使用すること。

○メーター一次側は(財)日本水道協会の認証製品であれば使用可能



管上30cmまでは再生砂、路盤までは再生クラッシャーランで埋め戻すこと。AS復旧は3cm以上の合材を敷設すること。

(施工上の注意)

- 二層ポリエチレン管(1種)を使用し、溶剤浸透防止スリーブをまくこと。挿し口部は面取りを行うこと。
- 中間検査(水圧テスト・コア挿入)は立会が必要。(工事写真に職員が入る必要あり)
- 水圧テストは0.75Mpaで10分間放置(予圧0.75Mpa 3分以上)0.65MPa以上あれば合格とする。水圧テストは、止水栓、分水栓を全開にし止水栓に水圧ポンプを取りつけること。
- 工事写真には工事名、水栓番号、施工場所、申請者名、取出管の管種・口径、引込管の管種・口径、施工業者名を記載した看板と一緒に撮影する。
- 被分岐管が粉体塗装管の場合は専用の穿孔機を使用すること。

2次側について

- 水圧、水量、水質は給水装置工事主任技術者の責任に於いて検査必要。残留塩素は、0.1mg/l以上必要
- 材料に関しては*認証機関の認証製品であれば使用可能
- 施工に関しては主任技術者の責任施工。(後日の事故等についても)

* 認証機関 (財)日本水道協会 (財)日本ガス機器検査協会